

# JAPAN ICOMOS / INFORMATION

INTERNATIONAL COUNCIL ON MONUMENTS AND SITES

JAPANESE NATIONAL COMMITTEE 日本イコモス国内委員会

7期—9号



2009.3.27

## CONTENTS ♣

はじめに／前野まさる 01

From the President/ Masaru MAENO

2008年次第4回拡大理事会報告(12/13)／赤坂 信 02

Report of the 4th Meeting of the Executive Board, 13th Dec. 2008

/ Makoto AKASAKA

日本イコモス国内委員会2008年次総会記録(12/13)／赤坂 信 06

General Assembly of Japan ICOMOS NC, 13th Dec. 2008

/ Makoto AKASAKA

研究討論会：世界遺産登録における「顕著な普遍的価値(OUV)」の証明について 17

報告者：玉林美男(鎌倉市)、嶋田孝弘(長崎県)、松浦利隆(群馬県)、石川善久(静岡県)

コーディネーター：清水真一

Reports and Discussion: Verification of OUV of World Heritage Sites

追悼 工藤圭章先生の思い出／藤井恵介 17

Mourning Memorial of Prof. KUDO / Keisuke FUJII

歴史的都市のマスタープランに関する研究 18

—原爆ドーム周辺の土地利用・景観を事例に—／佐々波秀彦ほか

Study on Master Plans of Historic Towns—Workshop about the Setting around the Atomic Dome at Hiroshima—

/ Hidehiko SAZANAMI et al.

坂戸城の石垣修復／飛田範夫 20

Restoration of Stone Walls of Sakado-Castle / Norio HIDA

お知らせ 21

Announcements

事務局日誌 22

Diary

はじめに  
前野まさる



2004年10月に愛媛県の内子町で開催されたICOMOSの民家学術委員会(CIAV)の最終日、10月16日のCIAV総会で歴史的港湾の浦の埋立架橋中止と保存の要請をしてから足掛け5年がたちました。2007年7月には地元住民が排水権をめくり裁判をおこし、去る2月12日に結審となり、判決を待つばかりとなりました。その間、2005年の西安ICOMOS総会決議、2006年のICOMOS法律・行政・財政学術委員会の要請、2008年のICOMOSケベック総会決議、日本イコモス国内委員会第6小委員会の軒の交通問題調査研究など、さらに、昨年12月にはアラオズICOMOS新委員長の国土交通大臣、文化庁長官、広島県知事、福山市長宛の軒の歴史的港湾、歴史的景観保存要請の手紙を戴き、大変なお力添えを戴きました。こうした国際的協力が戴けましたのも、軒の浦の持つ歴史的文化的景観の魅力と理解であり、ICOMOSの皆様方のお力添えがあつてのことだと思ひます。ICOMOSの皆様方に感謝しますとともに3月の判決を見守りたいと思ひます。

# 2008年次第4回拡大理事会報告

2008年次第4回理事会（拡大理事会）が2008年12月13日（土）10時15分から12時30分まで独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所会議室（東京都台東区上野公園13-43）で開催された。出席者は次の通り。委員長：前野まさる、副委員長：杉尾伸太郎、西村幸夫、事務局長：矢野和之、理事：清水真一、杉尾邦江、濱崎一志、益田兼房、渡邊保弘、黒田乃生、監事：前田耕作、本部執行委員：岡田保良、小委員会主査：稲葉信子、ISCメンバー：岸本雅敏、石崎武志、事務局から館崎麻衣子、補佐として秋枝ユミイザベル（前任者）以上17名が出席した。審議事項、報告事項、協議事項は以下の通りである。



## 1. 入退者、退会者の承認

以下、10名の入会者、1名の退会者が、審議の結果承認された。

### 入会者 個人会員

氏名	所属	専門分野	推薦者
関口 慶久 (せきぐちのりひさ)	水戸市教育委員会 文化振興課 文化財主事	考古学・石造美術	佐々木政雄・矢野和之
大貫 美佐子 (おおぬきみさこ)	ユネスコ・アジア 文化センター 文化協力課 課長	無形文化遺産条約、 東南アジア (ミャンマー) 文化人類学、学士	前野まさる・矢野和之
村松 保枝 (むらまつやすえ)	千葉大学大学院 園芸学研究科 博士後期課程1年	農学修士	赤坂 信・木下 剛
佐々木 健 (ささきたけし)	㈱ケンアンド スタジオバンガード 代表取締役 武蔵工業大学 非常勤講師	都市景観修士	前野まさる・矢野和之
館崎 麻衣子 (たてざきまいこ)	NPO 歴史的 建造物保存協会	工学修士	前野まさる・矢野和之
鯉坂 徹 (あじさかとおる)	三菱地所設計 建築設計三部	工学修士	稲葉信子・田原幸夫
赤澤 泰 (あかざわやすし)	文化財保存計画協会		甲斐衣子・山内奈美子

大橋 竜太 (おおはしりゅうた)	東京家政学院大学 家政学部 准教授	工学博士	山田幸正・前野まさる
小田 由美子 (おだゆみこ)	新潟県教育庁 文化行政課世界遺産 登録推進室	考古学	益田兼房・矢野和之
山口 博之 (やまぐちひろゆき)	山形県教育庁 文化遺産課	文学博士	前野まさる・矢野和之

### 退会者

工藤 圭章	日本建築史	ご逝去（2008年4月）
-------	-------	--------------

## 2. 小委員会創設について

歴史的建造物における塗装修理の手法に関する研究小委員会（第10小委員会）創設について矢野和之事務局長より説明があった。北京の彩色のシンポジウムでは中国側が意欲的に活動している。これに関連して日本独自の技法などの検討を目的として、窪寺茂氏が中心になって第10小委員会の設置が提案された。審議の結果、承認された。

## 3. 国際学術委員会（ISC）アソシエートメンバーへの新規参加について

下記3名のアソシエートメンバーが矢野事務局長から報告された。また、アソシエートメンバーの参加については、今後報告事項にするという旨が確認された。あわせて、委員会に参加したらレポートを出すなどISCの動きを国内で共有できるようにすることが提案された。

- ・秋枝 ユミイザベル (Theory and Philosophy of Conservation and Restoration)
- ・山内 奈美子 (Cultural Tourism)
- ・門林 理恵子 (Interpretation and Presentation)

## 4. 「歴史まちづくり法」の正式英語翻訳作成依頼について

国土交通省 都市・地域整備局 公園緑地・景観課 景観・歴史文化環境整備室（事業担当）より、益田兼房理事宛に11月4日より施行された「歴史まちづく



り法」の英文仮訳作成について、ICOMOSに委託することが可能かどうかの問い合わせが国交省からあった旨、益田理事より説明があった。審議の結果、益田理事にまとめ役をお願いすることが承認された。

## 報告事項

### 1. ICOMOS 国際会議報告

- The International Academic Symposium of Conservation and Sustainable Development of Village Cultural Landscape (中国 貴州) について黒田乃生理事から報告があった。

- International Seminar on Conservation of Painted Surfaces on Wooden Structures in East Asia (中国 北京) について秋枝ユミイザベル氏より北京メモ (Beijing Memorandum on the Conservation of Caihua in East Asia) の議論と採択が行なわれた旨、報告があった。

(本誌9～10頁に関連記事)

### 2. 2008年ICOMOSケベック総会について

前野まさる委員長から以下の報告があった。

第16回ICOMOS総会はカナダのケベック市で9月26日から10月5日まで開催された。参加国は107カ国、参加者は403人。会議の日程は、9月26日に各国際学術委員長会議、27日には若手会員の研修会と諮問委員会が開催された。28日には諮問委員会、29日は各国際学術委員会(ISC)、そして、30日に第16回ICOMOS総会の開会式。10月の1日2日はISCのシンポジウム、3日はテーマ別の視察旅行、4日最終日に総会と役員選挙という段取りだった。

10月4日の総会では、総会事務局の後にUNESCO代表の挨拶があり、総会決議を採択した。次いで

ICOMOS規約の改定を承認。新規ISC、Cultural Routes, Interpretation and Presentationの2委員会の設立を採択。学術シンポジウムの報告の後、ケベック総会の決議を採択した。総会の決議は第1項の「自然災害から地域固有の遺産を守ろう」に始まる32項目あり、その第8項目に鞆の浦の歴史的港湾、町並み、寺院景観の保存要請が決議された。この鞆の浦埋立て架橋中止の要望決議は第15回ICOMOS西安総会に続いて2回目であり、ICOMOS参加者の強い関心を示すものである。

役員選挙は、4日14:00より始まった。立候補者は委員長1名に対し2名の候補、事務局長1名無競争、財務委員1名に対し2名、副委員長5名に対し7名、執行委員12名に対し14名であった。まず候補者の決意表明を1人2～3分で行ない、投票人および投票委任状の確認があり投票に移った。委員長にはアメリカのGustavo ARAOZが当選、副委員長5名にはオーストラリアのKristal BUCKLEY、中国の郭張、南アフリカのAndrew HALL、メキシコのFrancisco LOPEZ MORALES、フランスのOlivier POISSONの各氏が当選した。執行委員12名中には日本イコモスからの候補者岡田保良氏は無事当選。韓国のRii Hae Un、ブルガリアのHristina STANEVA両女史も無事当選した。

最後のクロージングセレモニーではICOMOSの旗がカナダICOMOS事務局よりイランICOMOS事務局に手渡され、Gustavo ARAOZ新委員長から就任の弁があり、第16回ICOMOSケベック総会は無事終了した。

### 3. 国際学術委員会(ISC)の活動報告

(1) 文化的景観国際委員会(International Committee on Cultural Landscapes / ICOMOS-IFLA) について

文化的景観国際委員会の年次会合が2009年8月末から9月初めに日本で開催される予定である旨、杉尾伸太郎理事より報告があった。(INFORMATION7期8号を参照のこと)

(2) 保存修復研修 (International Training Committee / CIF) について

稲葉信子小委員会主査より委員の改選はなく、技能教育を今後3年間、稲葉氏を含む7名(日本、アメリカ、イギリス、中国、カナダ)でワーキンググループをつくって継続する旨報告があった。

(3) 建築遺産の構造修復と解析に関する国際専門委員会活動報告 (International Scientific Committee for Analysis and Restoration of Structures of Architectural Heritage / ISCARSH) (花里利一理事)

委員長の改選があり、投票の結果、Stephan KELLY (米国) と Claudio MODENA (イタリア) が同数で選出され、二人の委員長体制でスタートすることになった。(INFORMATION7期8号に関連記事あり)

(4) 木の委員会 (ICOMOS International Wood Committee / IWC) について

構成人数が不足しているため、Webを通じた募集を検討していること、アジアからのボードメンバーがいないことなどが渡邊保弘理事より報告された。

(5) 防災委員会 (International Committee on Risk Preparedness / ICORP) の活動報告 (益田兼房理事)

ケベック総会では、このICORPの活動についての検討が半日使って行なわれ、益田は日本代表として参加した。組織としては基本的に大きな変更はなく、代表はディヌ・ブンバル (カナダ)、共同代表にロヒト・ジギヤス (インド)、書記にロビン・リデット (オーストラリア)、財務担当に益田が決まった。

日本イコモス国内委員会の後援をいただいた、2008年度立命館大学ユネスコチェア文化遺産危機管理国際専門家研修 (セルビア・イラン・ネパール・ブータン・台湾から参加) と、11月17日東京青山国連大学ウタントホールでの「歴史まちづくり法施行記念国際シンポジウム—地震帯にある世界文化遺産の危機管理をどう進めるか」は、国交省文化庁等の後援もいただき、同時にICORPの活動としても位置づけられている。

この東京会議では、別紙の東京宣言「Tokyo Declaration for the Protection of World Cultural Heritage from Seismic Disasters」が採択され、ユネスコHPに掲載の予定である。

引き続き、2009年2月のユネスコ・カトマンズ世界文化遺産危機管理国際専門家会議 (立命館大学等主催) も、ICORPの活動と位置づける予定であり、3年後のイラン・イスファハンでのイコモス総会の学術テーマが文化遺産防災となったことを受けて、全体に活動を活性化すべく、まずICORPのHPの整備をオーストラリアが中心になって行なっている。

(6) 文化的観光委員会 (International Cultural Tourism Committee / ICTC) 総会報告  
(本誌11頁参照)

## 4. 会計報告

会費の未納問題について、矢野事務局長から報告があり、滞納者への対処について話し合いが行なわれた。これまでは、長期滞納者の名前は理事会で出し、3年滞った場合は、本部への支払いも止めていた旨報告があった。また、ICOMOSカードが日本国内で効かないため、日本でも効果を持つように働きかけをして欲しい旨、意見があった。各理事よりコンソーシアムでも取り扱う、世界遺産14箇所にはICOMOSから手紙を出すなどの提案があった。

日本イコモス国内委員会2008年次会計報告があった。本誌7~8頁を参照されたい。



## 1. 「熊野古道伊勢路」世界遺産登録5周年国際会議について

杉尾邦江理事から開催に関する説明があった。国際学術委員会CIIC (カルチュラルルート) 総会も同時



開催の予定。三重県主催に関して和歌山県、奈良県について、5周年記念のマーク作成や奈良と和歌山の後援参加、三県協議会の後援、という提案があった。また、日本イコモスで開催のバックアップ組織をつくってはどうかという提案もあった。

杉尾伸太郎理事より、日本イコモスが主催するが（ただし財政的負担を日本イコモスに与えない）、CIICが全面的に開催の準備を行なう、その他詳細は文化庁と相談しながら決めるということで提案があり、協議の結果承認された。

## 2. 木の委員会支援基金の設立について

伊藤延男顧問による「木の委員会支援基金」の運用については矢野事務局長より報告があり、協議のうえ承認された。また、木の委員会の日本委員代表について早急に確定する必要があることが確認された。

## 3. 日本イコモスの公益法人化について

事務局の強化と法人化に向けた特別チームを編成したい旨、矢野和之事務局長より要請があった。また、今後社団法人か財団法人化を選ばなければいけないため、継続して情報収集に当たり、公益法人化については継続協議することで確認された。

## 4. イコモス会員組織の検討について

杉尾伸太郎理事より国内名誉会員について、今年度中に案を作って次に引き継ぎたい旨報告があった。① ICOMOS本部が決める名誉会員は、ハードルが高いため、国内の名誉会員をつくったほうが良いこと、② 学生会員もについて今すぐ運用するのは事務局の体制的に無理があり、あわせて一般のサポート会員および海外居住の外国人会員についても先送りにすること、③ 賛助会員は増強するが代表者を2名にかぎって会員としての扱いにするなどのインセンティブをつけたいことなどが報告された。この件については、定款の改正とあわせて継続協議することが確認された。

## 5. 世界遺産登録に当たっての専門家会議や世界遺産登録推薦書作成委員会等の傍聴について

矢野和之事務局長より次のような提案があった。現在、平泉や鎌倉の世界遺産登録に当たって様々な会議が行なわれており、委員の中にイコモスメンバーが参加しているが、日本イコモスとして協力していく上でも、情報を共有していく必要がある。このため、拡大理事会メンバーなどを中心として、傍聴を行なう事ができるよう申し入れしたところ、平泉、鎌倉とも内諾を得ている。会議室などの関係で、5名程度可能という感触で、予め申込が必要である。拡大理事会メンバーを主体としてお声をかけるという提案があった。協議の結果、承認された。

## 6. 2009年度CIIC国内事業計画について

杉尾邦江理事より協議事項1とあわせて報告があった。

## 7. 理事会開催について

2009年3月（第1回）／6月（第2回）／9月（第3回）／12月（第4回・総会）を予定。公益法人化と絡むので、変更については随時連絡をすることを確認し、協議の結果承認された。



イラスト（全て）／前野まさる

# 日本イコモス国内委員会2008年次総会記録

日本イコモス国内委員会 2008 年次総会が、12 月 13 日（土）13 時 30 分から 15 時 30 分まで独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所会議室（東京都台東区上野公園 13-43）で開催された。出席者は 43 名、委任状 152 通を合わせて 195 名で、過半数に達しているため、総会は成立した。議事は報告事項と審議事項、さらに協議事項に分けて進められた。議長は山田幸正会員が昨年に引き続き選出され、議事進行にあたった。



## 1. 2008 年次一般報告

### (1) イコモス本部報告

2008 年の執行委員会は、第 1 回が 3 月 8～9 日にパリで、第 2 回が 9 月 26～28 日、10 月 5 日にケベックで、第 3 回が 11 月 27～30 日にパリで開催された。第 3 回は世界遺産登録の審査とともに開催された。このほか 6 月 9～13 日に中国・杭州でアジア・太平洋地域会議がもたれた（ICOMOS INFORMATION 誌 7 期 7 号）。  
(岡田執行委員)

### (2) 理事会

内容は JAPAN ICOMOS INFORMATION 誌 7 期 5 号～8 号に掲載されているので参照されたい。

### (3) 担当理事報告

●会員担当：会員、維持会員（杉尾伸太郎、田辺征夫）  
会員の動向は以下の通りである。

		個人 会員	団体 会員	維持会員		名誉会員 (顧問会)
				国際	国内	
2007 年度	12 月末	333	0	0	13	4
2008 年度	9 月 6 日現在	344 (+132)	0	0	14 (+1)	4
	12 月 13 日 予定	入会 10 退会 1				
		353	0	0	14	4

(杉尾伸太郎)

### ●渉外担当（西村幸夫、岡田保良理事）

海外からのイコモス会員来訪に当たっては、適宜歓迎会などの接遇の機会を設けてきました。新しくイコモス委員長に就任されることになった G. アラオズ氏は世銀と新生 JICA による文化遺産と国際協力のシンポジウムに参加するために（8 月）、オーストラリアイコモスの S. パーク氏は西洋美術館の評価ミッションのため（10 月）、J. ハード氏は国士館大学アジア日本研究セミナーのために（10 月）それぞれ来日され、情報交換とともに親交を深めることができました。また、11 月には C. キャメロン氏も富士山に関するシンポジウムのために来日され、その機に内輪の研究会を開催することができました。これらは情報をくださる会員の方々との良好なコミュニケーションならでのことなので、今後とも皆様のご協力をお願いいたします。  
(西村幸夫)

### ●事業担当（西浦忠輝、西村幸夫、清水真一理事）

以下のような研究会、講演会等を行なった。

#### I 主催事業

6 月 4 日 拡大理事会終了後、富岡製糸場視察と群馬県世界遺産担当との意見交換会

8 月 20 日 メールダッド・ヘジャジ教授（イラン・イスファハン大学）による講演会『イランにおける土と木の建築遺産の構造と修復』

9 月 6 日 拡大理事会終了後、研究会開催『世界遺産：ユネスコの課題・日本の課題 ～前ユネスコ大使近藤誠一氏をお迎えして～』

11 月 5 日 カナダの C. Cameron 氏による世界遺産の OUV に関する研究会

#### II 共催事業

2007 年 12 月 20 日～1 月 20 日 「朝鮮通信使の道」展 日本建築学会との共催

1 月 12 日 朝鮮通信使訪日 400 年を記念して日韓で多くの行事が行なわれた。シンポジウムでは日韓の研究者の参加のもとに論議され、「日韓共同遺産」の再評価を行なった。

10 月 17 日 平成 20 年度世界遺産保存管理事業「セ



ミナー 熊野古道と文化的景観」三重県教育委員会との共催

### III 後援事業等

1月16～19日 ACCU 奈良主催の国際会議「文化遺産の危機管理II - 自然災害への備えを考える - 報告 ICORP・防災（益田兼房）主催：COE「文化遺産を核とした歴史都市の防災研究拠点」

2月1日 第2回世界遺産フォーラム瀬戸内in 福山  
主催：第2回世界遺産フォーラム実行委員会

3月8～9日 第2回文化遺産のドキュメンテーションと利活用に関するワークショップ

主催：奈良文化財研究所 動体計測研究会

7月6日～8月10日 公開シンポジウム「地球から見た世界遺産」

9月12日 第3回文化遺産のデジタルドキュメンテーションと利活用に関するワークショップ

主催：奈良文化財研究所 動体計測研究会

9月27～28日 国際シンポジウム「東アジア・東南アジアの文化財の保存修復」

主催：文化財保存修復学会

10月11～13日 第31回全国町並みゼミ卯ノ内町大会「だんだん学ぼう よもよもひとづくり」

主催：特定非営利法人全国町並み保存連盟

11月8～9日 公開シンポジウム「地球から見た世界遺産」主催：別府大学

11月22～29日 ヨルダン王国・世界遺産遺跡スタディーツアー 主催：文化財保存支援機構

#### ●広報（赤坂信、黒田乃生、濱崎一志理事）

ICOMOS INFORMATIONが本年4号発行された。平泉の世界遺産については社会的にも注目されたが、7期7号に掲載された関連記事は会員の関心を集めた。本年のケベック総会の特集を最終号に企画したが、思うように原稿が集まらなかったため、次号に送りたい。

（赤坂 信）

## 2. 2008年次 会計報告

庶務会計担当（矢野事務局長・渡邊理事）

昨年から本部への送金が年40ユーロとなりましたが、今年の振込時期のレートはユーロ高でしたので会計を圧迫しています。また、未納会費の増加が見られますので期限内の会費の納入をお心掛けいただけますようお願いいたします。また、維持会員の増加をめざして安定した収入の確保が必要と考えます。

なお、伊藤延男顧問のご寄付により、木の委員会の活動を支援する目的で『木の委員会支援基金』が創設されました。（矢野事務局長）

## 3. 2008年次 会計監査報告

会計報告（次頁）の通り、間違いのないことを確認いたしました。（前田耕作監事）

### <補足説明>

#### 収入

寄付金	130,000円
内訳 日本コントラクトブリッジ連盟	100,000円
矢野和之	30,000円

以上

日本イコモス国内委員会 2008 年次会計報告 (2007/12/01~2008/12/10)

1. 前年度より繰越		1,819,931 円
2. 収 入		
会費		2,580,000 円
会員会費	1994 年~2005 年分	10,000 円
	2006 年分	30,000 円
	2007 年分	120,000 円
	2008 年分	2,390,000 円
	2009 年分	30,000 円
維持会員会費		650,000 円
国際会議助成金		0 円
雑収入		386,275 円
寄付金		130,000 円
普通預金利息		2,537 円
定期預金利息		12,481 円
合 計		3,761,293 円
3. 支 出		
ICOMOS本部年会費(401-□×200人、351-□×126人、201-□×7名)		2,032,542円
会議費(総会・理事会・研究会他)		612,518 円
国際会議費		0 円
INFORMATION 誌(編集・印刷費、4回)		888,300 円
通 信 費 (HP 立ち上げを含む)		316,749 円
事務用品費		81,018 円
事務局人件費(交通費を含む)		697,480 円
慶 弔 費		0 円
合 計		4,628,607 円
4. 収支(収入-支出)		-867,314 円
5. 次年度へ繰越		952,617 円
6. 銀行預金残高		
足達富士夫基金(普通預金)		5,000,000 円
木の委員会支援基金(普通預金)		1,000,000 円
普通預金		952,617 円
イコモス研究振興基金(トヨタ社債)		153,000 NZ ドル
計		6,952,617 円、153,000 NZ ドル

以上の通り報告します。2008 年 12 月 10 日

..... 会計担当理事

矢野和彦

渡邊保典

会計監査員

2008 年 12 月 10 日

監事

前田耕作





## 4. 2008年第16回ICOMOSケベック 総会報告

### ■ 2008年ICOMOS諮問委員会報告

坪井清足氏に名誉会員の称号を授与された。

(INFORMATION誌7期8号7頁参照)

### ■ 2008年ICOMOS総会報告

前野委員長報告(本誌3頁参照)

## 5. ICOMOS国際会議2008年次報告

2008年度に行なわれた日本イコモス会員が関与した主な国際会議は次の通りである。

### ■ The International Academic Symposium of Conservation and Sustainable Development of Village Cultural Landscape (中国 貴州)

2008年10月23日～26日、中国貴州において、集落景観の保全と持続的利用に関するシンポジウムが開催された(次頁プログラム参照)。中国、フランス、イタリア、オーストラリア、日本の専門家が集落景観の保全に関する発表を行なった。

日本からは次の3名が発表した。

・増井正哉(奈良女子大学)

The Support System of Landscape Preservation in Traditional Villages

・下間久美子(文化庁)

Village Landscape Control in Japan - System on Preservation District for Groups of Traditional Buildings and its Related Legislative Tools

・黒田乃生(筑波大学)

Conservation of Cultural Landscape in Shirakawa-go

最終日には、“Proposal on the Conservation and Development of Village Cultural Landscape”が合意された。(黒田乃生)

### ■ International Seminar on Conservation of Painted Surfaces on Wooden Structures in East Asia (中国 北京)

開催期間：2008年10月29日～11月1日

開催地：中国・北京

主催・共催：中国国家文物局、中国文化遗产研究院(旧・中国文物研究所)、China ICOMOS

参加者数：70名ほど(登録は68名)、うち23名が中国以外からの参加

参加国：中国を始め15カ国

日本からの参加者：

ペーパー発表：窪寺茂(イコモス会員、奈文研)、村田健一(文化庁)、馬場良治、

そのほか、ドキュメントワーキンググループなど：矢野和之(日本イコモス事務局長)、

秋枝ユミイザベル(イコモス会員、東文研)

日程の内容：セミナー、視察、ドキュメント編集ワーキンググループ

開催までの経緯と会議の成果・展望：

北京の世界遺産について、2004年、2005年に度々世界遺産委員会でState of Conservationの審議に取り上げられる。それを受けて、2006年に現地視察ミッション派遣(矢野和之が参加)。提出レポートをうけて2006年第30回世界遺産委員会にて審議され、その結果として決議文(30COM7B.63)は、東アジア(日韓越など)におけるpolychromyについての共同研究を進め、OUV・authenticity・integrityについてリージョナル規模のシンポジウムを2007～2008年の間に開催することを薦めている。この決議を受けて、2007年5月、北京にて国際会議が開催された(2007年総会にて報告済み)。テーマは“Concepts and Practices of Conservation and Restoration of Historical Buildings in East Asia”として、日本からは伊藤延男、清水真一、稲葉信子、秋枝ユミイザベルの4名が参加した。このシンポジウムの成果としてBeijing Document on the Conservation and Restoration of Historic Buildings in East Asiaが採択された。この2007年5月の会議のフォローアップとして、2008年には彩色についての会議が開催された次第である。この2008年の会議の結果として、Beijing Memorandum on the

Conservation of Caihua in East Asiaが議論され採択された。

今後の展望としては、東アジアの国々で、専門家間の研究会を開くこと、日本イコモスもその活動を進めていくことを表明し、会議は拍手をもって閉会した。

(秋枝ユミイザベル)

## 6. 各国際学術委員会 (ISC) 及び小委員会 報告

(1) ICOMOS 国際学術委員会 (ISC) 2008年1月～12月 (本誌3～4、9～12、15頁もあわせて参照されたい)

Archaeological Heritage Management (ICAHM 考古遺産管理運営委員会：小野昭、岸本雅敏)

2005年の西安 principle をいかに適用するかで大混乱に陥っている。メンバーとしての資格も曖昧となり、2009年1月の役員選挙を通していかに混乱を沈めるかが課題である。

(岸本雅敏)

Analysis and Restoration (ISCARSAH 建築遺産構造解析：花里利一、坂本功、西澤英和)

委員会では、ISO13822 (既存構造物) の ANNEX に Heritage Structures を加える ISO の活動を支援しており、現在までに、原案がまとまり、引き続き、ISO において作業部会が続けられている。(花里利一)

Training (CIF 保存修復研修：稲葉信子、工楽善道)

2008年度中は、4月28～29日ロンドンにおいて、また9月28日ケベックにおいて2回会合が開催されました。9月28日に開催された会議では、これまでの3年間において委員会が取り組んできた技能 (crafts) 分野での職業トレーニングの推進について報告があり、意見交換が行なわれました。議論の中で注目されたのは、開発途上国向けの国際協力事業にリンクするトレーニング分野での国際的なニーズを反映していないとの意見でした。国際協力事業におけるトレーニングの役割が重要なのはもちろんですが、しかしユネスコやイクロムとの役割分担の上からも、これら国際機関が

行なう国際協力事業にあまり引きずられる必要はないし、それはイコモス本来の役割ではないと考え、当方からそのように発言しました。技能トレーニングの推進については、今後3年間これを継続することとなり、USA (3)、UK (1)、日本 (1)、中国 (1)、カナダ (1) で構成するワーキンググループが結成されました。また遺産教育に携わる大学の国際ネットワークを構築することも提案され、賛同を得ました。(稲葉信子)

Cultural Landscapes ICOMOS-IFLA (文化的景観国際委員会イコモスイフラ：杉尾伸太郎、本中眞)

文化的景観国際委員会 (International Committee on Cultural Landscapes / ICOMOS-IFLA) の2008年次会合が、カナダ国ケベックシティーのICOMOS総会に先駆けて、米国バーモント州 (2008年9月26日 (金)～28日 (日)) 及びカナダ国ケベックシティー (29日 (月)) において開催された。

日本イコモス国内委員会からは、杉尾伸太郎 (日本代表・副会長) が voting member として出席し、日本イコモス国内委員会の大野渉会員が同行した。米国での会合は、ニューヨーク州との州境をなす Champlain 湖に面したシェルバーン農園で行なわれた。F. L. オルムステッドにもゆかりのある農園で、今回の会合の主催者である米国代表が文化的景観として保全に関わっているとのことであった。

会合では、文化的景観に関する世界遺産登録推薦審査 (デスクスタディー及び現地評価ミッション) に関わる専門家のための補助的なガイドラインの検討作業にあてられ、ガイドライン案の大枠について整理が行なわれた。本作業は継続し、2009年5月末 (27日～30日) で調整中) にフランス国ロワール地方において本件に関連した作業会合を開催することとなった。その後、陸路で総会の開催場所であるケベックシティーに移動し、29日には、グスタボ・アラオズ氏や IFLA 委員長のダイアン・マンジー氏を含む多くのオブザーバーの参加のもと、今後3年間の役員選挙、新メンバーの選考、2009年以降の会議開催場所の調整等が行なわれた。



選挙の結果、委員長のルイジ・ザンゲリ氏が引退し、新委員長としてモニカ・ルエンゴ氏（スペイン）が選任された。副委員長には、ソニア・ベルジュマン氏（再任・アルゼンチン）のほか、アジア・太平洋地域担当副委員長に杉尾伸太郎（再任）、ヨーロッパ地域担当副委員長にバーバラ・ヴベルナー氏（新任・ポーランド）、アメリカ地域副委員長にサウル・アルカントラ氏（新任・メキシコ）が選任された。また、これまでオブザーバーとして出席していた大野渉が正式にメンバーに選定された。（杉尾伸太郎、大野 渉）

#### Vernacular Architecture (CIAV 民家：前野まさる、大野敏)

CIAV の会議は9月29日に Grosse Ile 島の研究視察となった。(JAPAN ICOMOS INFORMATION 誌7期8号参照) (前野まさる)

#### Wood (IIBC 木の委員会：伊藤延男、渡邊保弘)

委員長の改選が行なわれた。また、執行体制のあり方について議論した。2009年の開催地はポーランド、2010年はインドと決定した。（渡邊保弘）

#### Earthen Architecture (土の建築：岡田保良)

2月4～11日にマリ共和国で国際会議 Terra2008 が開催された。

9月29日にケベックで有志の会議を開く。

その他、ネット上で、新メンバー募集、3カ年計画、役員選挙、次回国際会議 Terra2012 など。

成果：ホームページ更新 (<http://isceah.icomos.org>)

案内：2009年3月13～16日、イタリアで第1回 Med-iterranea2009 開催予定

(<http://people.unica.it/mediterranea/>)

(岡田保良)

#### Cultural Tourism (文化的観光：宗田好史、石井 昭)

9月29日に初めての試みとして ICIP (Interpretation & Presentation) との合同会議が開かれ、出版、ワークショップ、セミナー、トレーニング等の協働計画の

具体案について話し合われた。パイロットプロジェクトの具体的候補地もあがっていた。午後は ICTC 単独の総会が開かれ、新たに会員の再登録を行なって組織の再整理をしていること、過去3年間の活動報告、会計報告の発表があった。（山内奈美子）

#### Heritage Documentation (CIPA 写真測量文献：高瀬裕)

2009年10月11～15日に京都で CIPA 国際シンポジウムを開催する。アジアでは初めての開催となる。2009年9月12日には東京大学生産技術研究所において「文化遺産のデジタルドキュメンテーションと利活用に関するワークショップ」を開催する。

(高瀬 裕)

#### Cultural Routes (CIC 文化の道：杉尾邦江、大野 渉)

(本誌4～5、7、15頁参照)

#### Stone (ISCS 石質遺産：西浦忠輝、石崎武志)

すでに5年以上かけて重要事業として取り組んできた石の劣化に関するグロッサリー（専門用語集）がようやく完成し、フランス語、英語版が出版されました。これは、ICOMOS のホームページ上に公開されており、自由にダウンロードできます。

委員会では、この用語集を出来るだけ多くの言語で作成したい意向で、既にドイツ語、イタリア語、スペイン語では作成中であり、また、ロシア語、ギリシャ語も作成を開始するようです。日本語についても委員会より西浦宛に問い合わせがあり、前向きに検討する旨の回答を行なったところです。経費や著作権等の問題を含め、理事会で検討を頂きたく、近く、議題として提案したいと考えています。

役員改選のためのメールによる選挙が本年11～12月に行なわれ、来年1月より新体制でスタートするが、基本スタンスは変わらないもの思われます。

2009年には、上記の用語集の邦訳等の問題も含めて、国内の専門化委員会を何らかの形で発足させたいと考えています。（西浦忠輝）

## Risk Preparedness (ICORP 防災：益田兼房)

(本誌4頁参照)

## Rock Art (CAR-ICOMOS 岩面画：小川 勝・五十嵐ジャンヌ)

1月26日、早稲田大学にて、日本イコモス国内委員会傘下の研究部門という性格も有している日本先史岩面画研究会(代表：小川勝)の総会を行ないました。世界の岩面画を撮影している写真家・石川直樹氏を囲んで、世界の岩面画の現状、問題について議論をしました。

4月、本岩面画研究会が今年度から4年間、日本学術振興会科学研究費補助金を交付されることになりました。日本の岩面刻画において構築した先史岩面画の研究モデルを、北東アジア各国の調査研究においても、各国の独自の研究方法を吸収して、より普遍的な先史岩面画研究の方法を磨き上げてゆくの为本研究の目的です。

12月6日から10日まで、本岩面画研究会は科研費で、台湾南部の高雄市に近い山中の萬山岩雕遺跡の岩面画の調査あるいは情報収集を行なう予定です。

(五十嵐ジャンヌ)

### (2) 小委員会

#### 世界遺産小委員会：第4小委員会(主査：稲葉信子)

2007年度についての活動報告はありません。2008年度以降について、世界遺産条約の今後、世界遺産の審査のあり方、日本から推薦する遺産への日本イコモス国内委員会の対応について考える会を定期的に開催することを提案します。現在、日本が推薦する遺産は、県が主催する学術委員会において審議、県が原案をまとめて文化庁と協議、最終案をまとめて世界遺産委員会に提出しています。県が原案をまとめていく段階で、顕著な普遍的価値、ゾーニングの妥当性について、イコモス日本国内委員会(総体としての国内委員会の意見)、また個々の会員の意見を求めることもあります。この段階での日本イコモスの意見は推薦内容の方向性を決める上で影響が大きいので、総体としての国内委

員会及び各委員の意見が大きく異なることがないように、各委員が国際的な動向についての理解を共有しておく必要があると思っています。そうしたことを協議する場にしていくことを提案します。(稲葉信子)

#### プロヴェディフ旧市街保存事業協力班：第5小委員会(主査：石井 昭)

事業はほぼ終了し、報告書を作成している段階であることが、矢野委員長より報告された。

#### 鞆の浦の問題：第6小委員会(主査：益田兼房)

瀬戸内海の歴史的港湾都市、鞆の浦の保存については、9月のケベック総会で、2005年西安総会に引き続き2度目の保存のための勧告決議がなされた。その趣旨は、パリのイコモス本部から新会長アラオズ氏の名前で、直接に日本政府国土交通大臣、広島県知事、福山市長あて、手紙で送られた。これへの反応としては、福山市長は価値の高さの評価には感謝するとしながら、地域住民の要望である埋立架橋道路事業の着実な実行を目指すむねを、最近の記者会見で表明している。国土交通省では、この新聞記事を見て、パリのイコモス本部からの文書が省内で行方不明になっていることが判明し、日本イコモスへの問い合わせを受けて、その手紙のコピーを国交省に送る一幕も最近あったが、上層部を含めて関心が持たれていることは、ケベック総会の勧告決議の効果といえよう。

国内的な状況としては、麻生内閣で高山市を地盤とする金子一義議員が国土交通大臣に就任し、一般論としながらも鞆の浦に関して、風光明媚な場所を埋め立てるのは好ましくないとの趣旨を記者会見で発言している。これに関連して、鞆の浦を含む「美しい日本の歴史的風土100選」選定に関わった都市地域整備局公園緑地景観課が説明資料の作成等を行なっているもようであり、港湾局による埋立免許の認可についての見通しは容易には進まなくなってきたと見られるが、道路局は主要地方同整備事業の円滑な進捗を望んでおり、予断を許さない状況が続いている。折しも、11月4日から国交省文化庁農水省が共管する「歴史まちづくり



## 審議事項

法」が施行され、歴史的風土100選の都市など、日本の将来の国際的観光資産となる場所について、文化遺産とその環境についての保存整備事業へ相当額の投資が可能となっている。この法律の主たる所管は公園緑地景観課なので、ひきつづき状況を見守る必要がある。

(益田兼房)

白川郷・五箇山地区交通問題等：第7小委員会（主査：西村幸夫）

白川郷の遺産保存のためのマスタープランに関しては、昨年度において本小委員会の主要メンバーを含む委員会を村が立ち上げ、議論を進めてきましたが、その後、集落内の合意形成を得ることが先決ではないかという行政側の判断があり、現在は、集落内において官民による議論が進行中だと聞いています。本小委員会としては、その結果を待って、次の行動に移りたいと考えているところです。

(西村幸夫)

## 7. その他

### 新設小委員会の報告

歴史的建造物における塗装修理の手法に関する研究小委員会：第10小委員会（主査：窪寺茂）

上記の新設小委員会について2008年第4回理事会にて協議され、審議の結果、承認された。

### 足達富士夫基金について

2008年3月19日足立富士夫先生のご遺族から500万円の振込があり、足立富士夫基金ができました。この資金の運用に関しては、理事会の決定により順次運用していきたいと考えていますが、当面、公益法人の設立の基金にあてたいと思っております。

(矢野和之)



## 1. 新入会員および退会者の承認

2008年3月22日～12月13日で新規入会者は以下の通り。

### 個人会員

#### 第1回拡大理事会（2008年3月22日）承認

氏名	所属	専門分野	推薦者
篠原 修 (しのはら おさむ)	政策研究大学院 大学教授	景観デザイン・ 設計・計画思想史	益田兼房・矢野和之
関 哲行 (せき てつゆき)	流通経済大学 社会学部教授	中近世スペイン史、 文学修士	前野まさる・矢野和之
赤川 夏子 (あかがわ なつこ)	Inter-University Institute of Macau/ Catholic University of Portugal 客員教授	文化遺産学修士、 経営学修士	斎藤英俊・黒田乃生
木下 剛 (きのした たけし)	千葉大学大学院 園芸学研究所 准教授	造園学 (ランドスケープ計画)、 PhD	赤坂 信・矢野和之
岡田 真弓 (おかだ まゆみ)	慶応義塾大学 大学院文学研究科 民族学考古学分野 後期博士課程	西アジア考古学、 文化遺産学	三宅理一・岡田保良
大和 智 (やまと さとし)	筑波大学 人間総合科学 研究科教授	文化財保存、 建築史、工学修士	前野まさる・稲葉信子
山名 善之 (やまな よしゆき)	東京理科大学 工学部第二部 建築学科准教授	建築意匠 (近現代建築)	鈴木博之・矢野和之

#### 第2回拡大理事会（2008年6月14日）承認

氏名	所属	専門分野	推薦者
東郷 和彦 (とうごう かずひこ)	テンブル大学 ジャパンキャンパス 客員教授	国際関係論・ 日本外交史	前野まさる・矢野和之
松浦 利隆 (まつうら としたか)	群馬県企画部 世界推進室 室長	日本近代史、 技術史 文学博士（歴史）	矢野和之・前野まさる
山田 素子 (やまだ もとこ)	㈱ブレック研究所 ・文化財保護研究 センター研究員	文化財保存学・ 保存修復建造物、 文化財（修士）	杉尾伸太郎・杉尾邦江
乾 尚彦 (いぬい なおひこ)	学習院女子大学 国際交流学部 教授	建築構法・ 居住人類学、 工学修士	野口英雄・渡邊保弘

第3回拡大理事会（2008年9月6日）承認

氏名	所属	専門分野	推薦者
豊島 久乃 (とよしま ひさの)	国立文化財機構 東京文化財研究所 特別研究員	本文学、砂防学、 世界遺産学、 修士(農学、 世界遺産学)	清水真一・斎藤英俊
末長 航 (すえなが こう)	広島女学院大学 生活科学部 生活デザイン・ 情報学科教授	美術史・建築史・ 文化資源学 博物館学 文学修士	羽生修二・山田幸正

第4回拡大理事会（2008年12月13日）承認

氏名	所属	専門分野	推薦者
関口 慶久 (せきぐちのりひさ)	水戸市教育委員会 文化振興課 文化財主事	考古学・石造美術	佐々木政雄・矢野和之
大貫 美佐子 (おおぬき みさこ)	ユネスコ・アジア 文化センター 文化協力課 課長	無形文化遺産条約、 東南アジア (ミャンマー) 文化人類学、学士	前野まさる・矢野和之
村松 保枝 (むらまつ やすえ)	千葉大学大学院 園芸学研究所 博士後期課程1年	農学修士	赤坂 信・木下 剛
佐々木 健 (ささき たけし)	㈱ケンアンド スタジオバンガード 代表取締役 武蔵工業大学 非常勤講師	都市景観修士	前野まさる・矢野和之
館崎 麻衣子 (たてざき まいこ)	NPO 歴史的 建造物保存協会	工学修士	前野まさる・矢野和之
鯉坂 徹 (あじさかとおる)	三菱地所設計 建築設計三部	工学修士	稲葉信子・田原幸夫
赤澤 泰 (あかさわ やすし)	文化財保存計画協会		甲斐章子・山内奈美子
大橋 竜太 (おおはし りゅうた)	東京家政学院大学・ 家政学部 准教授	工学博士	山田幸正・前野まさる
小田 由美子 (おだ ゆみこ)	新潟県教育庁 文化行政課 世界遺産登録推進室	考古学	益田兼房・矢野和之
山口 博之 (やまぐち ひろゆき)	山形県教育庁 文化遺産課	文学博士	前野まさる・矢野和之

維持会員（国内）

第2回拡大理事会（2008年6月14日）承認

団体名	専門分野	推薦者
丹青社	展示設計・製作	前野まさる・矢野和之

退会者

一般会員

氏名	事由	専門分野
藤木 良明	一身上の都合により	建築
森 晃一	ライトアーカイブス Japan 退任のため	近代建築史
工藤 圭章	ご逝去（2008年4月）	日本建築史

維持会員 なし

日本イコモス国内委員会 会員数（2008.12.13現在）

個人 353名 維持会員 14社

2. 2009年次活動計画

会員担当：会員、維持会員（杉尾伸太郎、田辺征夫）

- ① 国内名誉会員の創設について、イコモス本部が定める名誉会員と紛らわしいとの指摘があり、廃案となったが、本部における名誉会員の推薦者が増えるに従って、日本人の選出も難しくなる傾向がある。したがってジャパン・イコモスへの功績が多めで、一定以上の年齢に達した方々を国内名誉会員として、しかるべき処遇をする事を来年の総会で決議する事を想定し、検討したい。
- ② 学生会員の設置について、事務局の体制に無理があり現時点では難しいが、来年の規約改定や財政状態によっては可能となるので、検討を始める。
- ③ 一般のサポート会員または海外居住の外国人会員については、今後の課題にしたい。
- ④ 賛助会員の増強を今後も図るとともに、賛助会員へのインセンティブについても選挙権を与える等、さらに議論を重ねる必要がある。（杉尾伸太郎）

事業担当（西浦忠輝、西村幸夫、清水真一）

2009年度は、国際シンポジウムが2008年度よりもさらに増え、さらには日本の世界遺産暫定登録関連の会議やシンポジウムが多くなると考えられます。このため、研究会などのテーマを適切に判断し、ISCや小委員会、他の機関との共催を含めて開催していきたいと考えています。



また、懸案の日本イコモスとしての研究発表大会などの開催を模索したいと考えています。

広報担当 (赤坂 信、黒田乃生、濱崎一志)

2009年度は2008年度にやり残したことを継続して行ないたいと考えています。年4回の日本イコモスインフォメーションの充実と、HPの更新を目指したいと思います。(赤坂 信)

### 3. 各国際学術委員会 (ISC) 及び小委員会 活動計画

(1) ICOMOS 国際学術委員会 (ISC)

Heritage Documentation (CIPA 写真測量文献：高瀬裕)

9月5日発行のJAPAN ICOMOS/INFORMATIONに、アジアで初めての開催となる第22回CIPA国際シンポジウム2009京都のFirst Announcementを出させていただきましたが、アブストラクト・論文関連のスケジュールに変更がありましたので、お知らせいたします(期日が遅くなりました)。また、正式なホームページがオープンしましたので、詳しくはこちらをご覧ください。

(<http://www.rgis.lt.ritsumei.ac.jp/cipa2009/>)

(高瀬 裕)

Cultural Routes (CIIC 文化の道：杉尾邦江、大野 渉)

2009年度日本イコモス (CIIC) 国内事業計画

①事業 国際シンポジウム開催を計画

②事業の実施形態

事業は日本イコモス国内委員会、ISC CIIC、三重県との3者共同主催

文化庁等後援

③開催時期 2009年10月29日～11月6日の期間内

④場所は伊勢市を予定

⑤三重県が世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」登録5周年を記念して行なう国際シンポジウム(尾鷲)実施の企画支援の要請を受けて此の国際会議に関連して三重県のサポートを受けて実施するものである。

⑥会議は日本イコモス国内委員会会員の他、イコモス、CIICその他外国から多数専門家を招聘して実施します。

⑦会議は「世界平和の構築を考える世界遺産国際交流シンポジウム2009 in伊勢」と題して、これからの世界遺産の新しい理念を問う、世界平和構築への寄与をテーマに事例による検証等、提唱等の論文発表、ラウンドテーブル形式での意見交換、一般聴衆との交流を行なう、関連してISC CIICの総会、伊勢神宮、熊野古道(伊勢路)などへのエクスカージョンを行なう。

⑧会議規模はオーラルプレゼンテーション、基調講演等30名、ラウンドテーブルディスカッション8人程度、参加者は関係者50名、一般参加者200名程度の300名～400名程度の規模を予定。

⑨会議の結果として「世界遺産による平和宣言」を起草し発表する。

⑩日本イコモス国内委員会に「会議準備委員会」及び「会議実行委員会」を組織して準備、実施する。

⑪経費費 概算1000万円程度、内三重県補助以外に国際交流基金、イオン基金、平山財団等からの助成金の交付金を予定し、申請中。

(杉尾邦江)

Rock Art (CAR 岩面画：小川勝・五十嵐ジャンヌ)

本岩面画研究会は、来年も引き続き、科研費でアジアの岩面画調査を行ないます。1月9日から12日まで、鹿児島県徳之島の先史岩面画遺跡群の調査に参ります。秋には、中国北部の岩面画の調査として、賀蘭山岩面に行く予定です。(五十嵐ジャンヌ)

(2) 小委員会

文化遺産のバッファゾーン：第8小委員会(主査：崎谷康文)

文化遺産のバッファゾーン小委員会は、2009年に本格活動を始めたいと思います。景観法の制定や、本年11月から施行された文化庁・国土交通省・農水省の共同所管による「歴史まちづくり法」、さらには文化庁による「歴史文化基本構想モデル事業」など広域の文化遺産保存の動きが活発化している中で、バッフ

ァズーンはますます重要な役割を占めることと思われ  
ます。メンバーには崎谷の他、梅津章子氏、岡村祐氏  
等に加え、会員から広く参加を募りたいと考えていま  
す。また、景観などに精通した法律の専門家も加える  
必要があると考えています。 (崎谷康文)

#### 4. 2009年次予算案

2009年は、ユーロ安による本部送金の軽減と未納  
会費をお支払いいただくことで、収支のバランスをとっ  
ていきたいと考えていますが、やはり会員各位の強力  
な支援で維持会員の獲得をしていきたいと考えていま  
す。また、イコモスの主催や共催のシンポジウムが予  
定されていますが、これらの費用に関しましては、国  
や公共団体の予算が未成立なため計上していませんが、  
3月頃にははっきりしてくると思います。

(矢野事務局長)

#### ■日本イコモス国内委員会

2009年次予算 (2008/12/1～2009/11/30まで)

##### 1. 収 入

2009年分会員会費	3,490,000円
未納分会員会費	1,360,000円
維持会員会費	700,000円
未納分維持会員会費	50,000円
事業費等収入	0円
雑収入	0円
寄付金	150,000円
普通預金利息	2,000円
定期預金利息	12,500円
合 計	5,764,500円

##### 2. 支 出

ICOMOS本部負担金	1,600,000円
会議費	400,000円
研究費	0円
渡航費補助	0円
INFORMATION誌 編集・印刷費	900,000円
通信費	400,000円
事務用品費	100,000円
事務局人件費 (交通費を含む)	750,000円
事業費	0円
法人化準備費	200,000円
合 計	4,350,000円

##### 3. 収 支 (収入-支出)

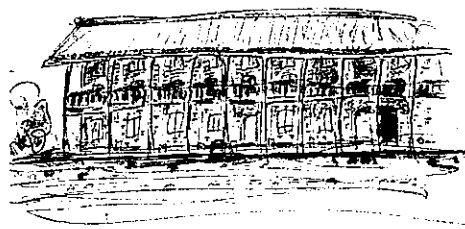
1,414,500円

### 協議事項

#### 公益法人化について

本年12月に新たな公益法人制度がスタートいたし  
ますが、2009年次に具体的な取り組みを行ないたい  
と思います。規約の改正、活動予算の確保、事務局機  
能の強化など大きな課題が存在しており、事務局だけ  
では荷が重いところでもあり、今後理事会とも諮って  
特別チームを編成することも視野に入りたいと思いま  
す。会員各位の協力をお願いしたいと考えております。

なお、2009年末が現役員の改選時期に当たるため、  
2009年次総会をもって新法人に移行することがよい  
と考えています。 (矢野事務局長)







## ●研究討論会

12月13日(土)に開催された日本イコモス国内委員会2008年次総会後に東京文化財研究所会議室で下記のテーマで研究会が開催された。

「日本イコモス国内委員会研究会 - 世界遺産登録におけるOUVの証明について -」

世界遺産登録については、OUV(顕著な普遍的価値)の証明が最大の課題である。現在暫定登録となっている文化遺産13の物件の中で、登録の準備が進んでいる4事例について報告があった。報告者より、世界遺産推薦書作成準備に関する現状について詳細な発表があり、各々のOUVについての見解と抱える課題について討議された。

報告者は以下の通り

『武家の古都鎌倉』 鎌倉市世界遺産 登録推進担当課長補佐 玉林 美男

『長崎の教会群とキリシタン関連遺産』 長崎県知事公室(世界遺産担当)企画幹 嶋田 孝弘

『富岡製糸場と絹産業遺産群』 群馬県世界遺産推進室長 松浦 利隆

『富士山』 静岡県世界遺産推進室 主幹 石川 善久

コーディネーター：清水真一(東京文化研究所)

## 追悼 工藤圭章先生の思い出

藤井恵介

昨年(平成20年)4月3日、工藤圭章先生がご逝去された。謹んでご冥福をお祈りしたい。工藤先生は、

昭和29年横浜国立大学卒業後、東京大学大学院を経て、奈良国立文化財研究所に奉職されて発掘、建築調査などに従事され、後には文化庁建造物課長、文化財監査官として文化財保護行政の中心的役割を果たされた。

私が最初にお見かけしたのは、昭和53年、大学院生のアルバイトで奈良国立文化財研究所の飛鳥藤原宮跡発掘調査部に一夏お世話になったときである。部長の工藤先生にご挨拶をせねばと思っていたが、誰も紹介してくれない。目つきの鋭い背の高い白髪の老人(に見えた)がいて、草むしりをしながら所内をウロウロしていた。まさかとは思ったが部長にはとても見えなかった。通っていた大官大寺塔跡の発掘現場が水浸しになってしまい、事後処置のために番長だった鬼頭清明さんが黒塗りの公用車で、部長を案内して来たのだが、車のなかからあの老人が出てきたのにはビックリした。後の酒席で、工藤さんは、新幹線で若い母親が子供を立たせて「おじいちゃんに席を譲りなさい」と言い、甘んじて座ってきたことを、「自分も大人になったもんだ」と自慢していた。根っから磊落な人を始めて経験した。しばらく、お目にかかる機会がなかったのだが、5年ほど前に遺跡の復元建築の検討委員会に呼ばれていたら、その座長が工藤先生だった。次々と案件の分厚い資料が出てくるのだが、担当官の一通りの説明を聞きながら、復元建築の存在意義、様式から細部技法の妥当性まで、すべてを即刻チェックしないといけない。工藤先生の判断の確かさには驚いた。7世紀の遺跡から近代建築まで、的確かつ厳しい指摘が間断なく、続くのである。委員を長年されていたのだから、国指定史跡に建っている復元建築のそれらしさは工藤先生によるところが大きいだろう。体調を崩されてからも、この委員会には欠席されなかったし、気迫も変わらなかった。だからご病気の話を聞いても、大したことはないような気がしていた。工藤先生がこの仕事にかけていた情熱と責任感を、昨日のように思い起こす。

## 「歴史的都市のマスタープランに関する研究」

(第11小委員会として日本ICOMOS総会(2009年3月)に提案予定)

佐々波 秀彦

本第11小委員会では、第8小委員会「文化遺産のバッファゾーンに関する研究(仮)」と協力して、ユネスコ世界文化遺産に登録され得るような歴史的建造物をもつ都市を取り上げる。そのマスタープランの策定・改訂に当たり、どの様にしてこれらの歴史的建造物の景観環境を保全するかを課題とし、周辺コミュニティの住民、関連企業及び関係公共機関と協力して、周辺建造物及び土地利用に関してマスタープランの作成に協力・助言することを企図している。本小委員会は、インターナショナルICOMOS本部とも協力して、具体的なマスタープラン評価指針の作成を企図している。

今回のワークショップは、講師として宇高雄志氏(兵庫県立大学准教授)を招き、今年3月に開催されるジャパンICOMOS総会に提案する第11小委員会の事前活動として企図されたものである。「広島」の原爆ドーム周辺の景観環境のより適切な保全は、非常に重要な課題であり、ここで「広島」の景観問題をまず取り上げた次第である。今後、広島市の関係諸機関と連絡をとり、ジャパンICOMOSとしての具体的な提案を取りまとめたいと考えている。

### 第一回ワークショップ 議事録

「原爆ドーム周辺の土地利用・景観について」

記録担当：狩野朋子(佐々波地域事務所)

■日時：2009年1月15日

■場所：JAPAN イコモス会議室(東京都千代田区一ツ橋2-5-5 岩波書店一ツ橋ビル13F)

■講演者：宇高雄志(兵庫県立大学准教授)

■司会者：佐々波秀彦(佐々波地域事務所代表)

■出席者：前野まさる(東京芸大名誉教授/日本ICOMOS委員長)、岡田保良(国士舘大学教授/ICOMOS執行委員)、崎谷康文(第8小委員会主査)、赤坂信(千葉大学大学院教授)、矢野和之(文化財保存計画協会)、西川(東大西村研)、馬場(東大西村研)、狩野朋子(佐々波地域事務所)

■資料：

- ① Hiroshima A-bomb Dome and Surroundings
- ② ヒロシマ平和メディアセンターについて
- ③ 広島の報告パワーポイント

■講演内容

1) UNITAR(国連訓練調査研究所)の紹介

開発途上国政府職員を対象とした能力育成プロジェクトに携わる国際機関である。UNITAR広島事務所では、世界遺産、海洋と人間の安全保障、紛争後の復興に加えて、研修の原則や方法論、国連平和維持活動、国際経済及び金融、情報技術、遠隔教育などの新しいテーマまたは他分野にまたがるテーマに焦点をあてて研究活動や事業を行なっている。その他、世界遺産に関連する団体は、ICOMOS、IFLAなど。

※宇高先生は、世界遺産の保全と管理トレーニングに関して講師(2004～)をされている。

2) 3つの「広島」

「広島」には、3つの表記があり、次のように区別されている。

- ① 広島………戦前までの「広島」、帝国主義的な遺物として
- ② 広島………終戦後の広島
- ③ ヒロシマ…1970年代以降平和の象徴として。核拡散防止条約。世界遺産で重視される「広島」

3) 「平和記念公園」について

1949年に「平和記念公園」の建設がはじまる。公園の計画は、南側の「平和記念資料館」と北東の「原爆ドーム(広島の平和記念碑)」を結ぶ南北軸、「平和記念資料館」を中心とする3棟の建物による東西軸からなっている。丹下健三氏の設計により、「平和の工場」として建設され、当初落書きだらけであった「原爆ド



ーム」は1949年以降、「歴史的価値をもつ廃墟」となる。

「原爆ドーム」は現在、ユネスコの「負の世界遺産」に登録されているが、保存の経緯は次のようになっている。

① 1965年 第1の保存計画：たる募金により補修費用が捻出されている

② 1989年 第2の保存計画：全国規模の募金により第2回保存工事の実施。

無番地

③ 1996年 ユネスコ世界文化遺産に登録：恒久平和、核兵器廃絶を求めるシンボルとして登録されている。世界文化遺産登録に対する反対や批判もあり、中国は日本が旧侵略国である点、アメリカは原爆により終戦が早まった点を指摘している。

4) 「平和記念公園」周辺について

・「平和記念公園」周辺の考え方：周辺の建物は、「平和記念公園」景観に対する阻害要因（障害物）としての考え方と、復興の証であるとする考え方がある。

・周辺建物の状況：自主的に良好な景観を保存するために、周辺建物の色や広告を抑える動きがある。景観を尊重している方が、経営上利益があがるという意見も出ている。

5) 条例の施行

・条例の施行：「平和記念公園」使用のための条例として、都市公園法及び広島市公園条例などにより、管理されている。

・公園の状況：2000年位から、「平和記念公園」の状況が変化しており、バンダリズムも問題（千羽鶴に火をつけるなど）となっている。

6) 語りのイベント

・高齢化問題：毎年20名位により合計1,900回ほどの「語りのイベント」が開かれているが、これらの説明者の高齢化が問題となっている。

7) 来訪者・観光について

・8月6日の宿泊者：毎年、全国各地からの来訪者により、ホテルは満室となる。

・拝観時間：資料館等の拝観は通常3時間程かかるが、

グループツアーでは現在短時間（45分程）で紹介されている。

・経営的な視点からの課題：ショッピングの対象となるような、直接的に商品に結びつくものが殆どない。

8) その他の問題

・残留放射能問題：70年間草が生えない状況もあり、被爆者やその子孫に対する先入観が依然としてある。

9) 今後の「広島」について

・原爆都市のほかに世俗都市としての「広島」をどのように形成していくかに注目したい。

■発表者に対する質問、意見等

本ワークショップの最終的な課題は、原爆ドーム周辺の景観保存をどうすべきか、ということにある。「広島」のマスタープランとの関係から、次のような議論・意見が出された。

1) 「広島」の捉え方について

2度と繰り返さないために、どのような政策が必要なのか？日本人のものの考え方、政治の在り方と関連して反省の材料として捉えるべきである。

2) バッファゾーンについて

高さ制限については、地権者の反対が出ている状況である。高さに関する条例は、再度確認を要するが、既存不適格を出したくないため、お願い条例になっている可能性があるため、この点につき調査・検討する。

※「平和記念公園」の周囲については、「原爆ドーム及び平和記念公園周辺建築物等美観形成要綱」が定められている。「平和記念公園」に直接または河川、河岸緑地を介して接する道路に面する街区で道路端から50メートル以内の地区においては、建築物を新築・増改築する場合は届出を必要とする。広島市は基準に従って建物の配置、壁面の材料、色彩・屋外広告物等について指導し、景観の保全に努めることになっている。また、緩衝地帯を流れる河川は、河川法によって国が管理している。

3) 景観保存に対する視点、方法論

・対象地全体をコントロールするのではなく、特定の1～2点からの視点を重視する方法もあると思われる。軸を設定し、その軸上は高さ制限を設けるなど。

・ウォーターフロントの景観としての視点

・広島は土地不足の問題があるため、単なる土地利用

ではなく、周辺の土地の確保も含めた視点が重要。

- ・市民グループの重要性、市民参加や地元の人々の協力をどのように得るか。
- ・ゼロは何を生むのか？東京のゼロ（皇居）と「広島」のゼロ（平和記念公園）の差異は何か？双方の差異を言及することにより、「広島」の特異性を考慮する。
- ・緑化の視点。
- ・「資料館」の様々な展示物を、公園全体に点在させる方法もあるのではないか。
- ・ただ参観者数を増やすという話ではない点に留意すべきである。
- ・長期的な視点で公園を考えると、都市計画審議会のバックアップが必要。
- ・いかに悲惨な状況を想起させ、今後、悲惨な状況が起こらないようにするためのメッセージをこめるか。平和運動を促進させるための施策としての“祈りの場”としての視点。
- ・平和運動の流れに関して、より詳細な調査が必要である。
- ・「今は新しい広島だから、新しい建物が建つのは悪くない」という視点もある。このように、今日的状況の下で、考慮されるべきである。
- ・生活者の視点及び地権者の視点についても、調査・検討すべきである。
- ・比較研究を行なう。比較対象としては、ケルン大聖堂の景観と「原爆ドーム」の景観、メルボルン（ロイヤル・エキジビション）のバッファゾーン（薄いバッファー）と「平和記念公園」周辺のバッファゾーン、また、「広島」と「長崎」との被災歴史的建造物修復事業を比較する。

#### ■次回の議題（案）

これからの視点として、次の2項目が挙げられた。

- ・「広島」と「長崎」の比較研究
- ・「広島」における世俗性、日常性、生活に根ざした文化とは何か

## 坂戸城の石垣修復

飛田範夫

NHK大河ドラマ「天地人」で、新潟県南魚沼市の坂戸城が、直江兼嗣に関連するとして映し出されていた。越後と関東を結ぶ地点として重視され、戦国時代に上田長尾氏が現在残る坂戸城を築いたといわれている。

標高634メートルの山頂部分の城砦、西麓の城主の居館、その南の尾根中腹の屋敷の3つから、坂戸城は構成されている。

城主の居館は約100メートル四方で、土塁と一部堀に囲まれているが、西側正面には石垣が積まれている。この石垣は崩れた部分が多いために、今回修復することになった。

国指定史跡ということもあって、まず発掘調査が行なわれた。その結果、当初は土塁が築かれていて、あとで石垣を貼り付けたことが判明している。

問題はどこまで石垣を直すかだが、崩れ落ちた部分や崩れそうな部分を全部直していくと、まったく新しく石垣をつくってしまうことになりかねない。

崩れてしまいそうな部分だけを修復すれば、昔の工法が残るので理想的なのだが、一般の人からすれば不十分な整備だと批判をされることになる。

これから整備委員会でどこまで修復するかが検討されるのだが、整備というのは難しいと毎回痛感させられる。



発掘中の坂戸城の石垣



## お知らせ

### Australia ICOMOS E-Mail News

オーストラリアイコモスより配信いただいている E-Mail News では、文化遺産の保護に関するさまざまな取り組みが紹介されています。

377号（2月13日配信）では、「ビクトリア州のブッシュファイアの最新情報」として、ブッシュファイアや洪水による文化遺産の被害への対策について掲載されています。内容詳細は配信メールをご覧ください。

日本イコモス国内委員会では、会員の方々に、「日本イコモスからのお知らせ」として、内外からの文化遺産に関する情報をメール配信しています。メールが配信されていない方は、事務局（[jpicomos@japan-icomos.org](mailto:jpicomos@japan-icomos.org)）までメールアドレスをお知らせください。

Australia ICOMOS E-Mail News No. 377

An information service provided by the Australia ICOMOS Secretariat  
Friday 13 March 2009

- 1) Victorian Bushfires – an update
- 2) Australia ICOMOS New Membership Applications
- 3) Community Heritage Grants
- 4) Last chance to pre-order Significance 2.0 – a message from the Collections Council of Australia
- 5) Report from ISC Theory conference with ICROM, Florence 6-8 March 2009
- 6) Researching the History of Your House Workshops 2009
- 7) UNESCO Australian Memory of the World Register 2009 – call for nominations
- 8) Historic Gardens of New England: Photographic Exhibition

### Situations Vacant

- 9) Project Officer, Heritage Victoria
- 10) Provision of Regional Heritage Advisory Services for Peel Region

- 
- 1) Victorian Bushfires – an update

On behalf of Australia ICOMOS and the wider ICOMOS community internationally, our thoughts and kind wishes are extended to ICOMOS members directly affected by the fires and floods. A number of members have kindly contributed their suggestions as to how we can make a difference as an organisation as well as on an individual level. These suggestions are appreciated and summarised below. An update of the Bushfire Round Table is also provided.

- Disaster Guidelines
- Bushfire Round Table
- Opportunities to Help
- Role of Heritage in Community

(Australia ICOMOS E-Mail News No. 377, 13 March 2009 より抜粋)

### ICMOS 民家学術委員会 CIAV のお知らせ

2009年次 CIAV 委員会はルーマニアで5月20日から開催されます。19日にSIBIU市に集合し、20日から135km北方のRIMETEAに向けて町巡りをしながら21日到着。22～23日シンポジウムがあり、24日に閉会。この間、トランシルヴァニアの地域文化を示すこの地方の催しがあるようです。

# 事務局日誌

(2008年11月9日～2009年2月28日)



- 11/12 John Hurd氏 (ICOMOS Advisory Committee 委員長、土の建築専門委員会 委員長) 来日歓迎の夕食会を国内委員会理事を中心として上野にて開催 (8名参加)。
- 11/14 国士舘大学アジア 日本研究センター主催 研究会 (AJフォーラム) にて、John Hurd氏講演会 “The ICOMOS approach to and involvement in the World Heritage sites process” (日本イコモス後援事業) 開催 (於 国士舘大学世田谷校舎中央図書館4階AV室)。
- 11/17 ISCARSAH セミナー開催 (於・東京文化財研究所 地下1F 会議室)。Maria Ioannidou氏 (Acropolis Restoration Service)、Androniki Miltiadou氏 (Ministry of Culture)、Harris Mouzakis氏 (National Technical University of Athens) がギリシャにおける文化遺産の修復および構造について講演。セミナー終了後、浅草にて歓迎会を開催。文化財保存支援機構より「NPO JCP News」(no.18 2008.10.30) を受領。
- 11/19・26 雑司が谷地域文化創造館主催「ちとせ橋コミュニティ塾」(受講生50名) 第20回・21回目講座「日本の世界遺産」において、前野まさる委員長が講演。
- 11/21 (財)ユネスコ・アジア文化センターより ACCU news no. 370,2008.11 を受領。
- 12/10 [JAPAN ICOMOS INFORMATION] 第7期8号発行、会員に順次発送。
- 12/13 日本イコモス国内委員会 2008年次第4回拡大理事会、2008年次総会、研究会、懇親会を開催 (於 独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所 地下1F 会議室、セミナー室、ロビー)。延べ120名が参加。研究会「世界遺産登録におけるOUVの証明について」においては、世界遺産登録に取り組む市町村から、鎌倉市 (武家の古都鎌倉)、長崎県 (長崎の教会群とキリシタン関連遺産)、群馬県 (富岡製糸場と絹産業遺産群)、静岡県 (富士山) が各々の取り組みや現状について講演。
- 01/15 研究会「原爆ドーム周辺の土地利用・景観について」を開催 (於・文化財保存計画協会 会議室)。宇高雄志氏 (兵庫県立大学 環境人間学部 准教授) がこれまでの原爆ドーム景観問題について講演。参加者10名。
- 01/20 世界遺産小委員会 (第4小委員会) 開催 (岩波書店一ツ橋ビル 地下1F 会議室)。参加者7名。  
港ユネスコ協会主催 第27回港ユネスコ協会国際シンポジウム2009「世界遺産の環境と観光—日本文化からの発信—」開催 (於 男女平等参画センター5階 ホール)。前野まさる委員長が講演。
- 01/26 (財)ユネスコ・アジア文化センターより ACCU news no. 371,2009.1 を受領。
- 02/11 日本ユネスコ協会連盟より「世界遺産年報2009」を受領。[JAPAN ICOMOS INFORMATION] 第7期9号と併せて、会員に順次発送予定。  
パリ ICOMOS 本部より、ICOMOS カード受領。順次発送。
- 02/18 (財)地域地盤環境研究所 岩崎好規氏へ 第2回サイバー大学巡研・狭山池シンポジウム「古代の土構造とその保存」の後援依頼に対して許可を返送。

## 日本イコモス国内委員会 維持会員 (代表者)

株式会社 尾田組 (尾田芳信)  
株式会社 都市環境研究所 (矢嶋啓自)  
株式会社 ブラック研究所 (杉尾伸太郎)  
株式会社 トリアド工房 (伊藤民郎)  
西武建設株式会社 (大澤茂治)  
北野建設株式会社 (北野貴裕)  
株式会社 小林石材工業 (小林美和)

株式会社 鴻池組 (玉井啓悦)  
株式会社 乃村工藝社 (乃村義博)  
株式会社 文化財保存計画協会 (矢野和之)  
「国宝松本城を世界遺産に」推進委員会 (菅谷 昭)  
株式会社 京都科学 (片山 保)  
「善光寺の世界遺産登録をすすめる会」(仁科恵敏)  
株式会社 丹青社 (渡辺 亮)

(敬称略・順不同)

●日本イコモス国内委員会 理事会 JAPAN-ICOMOS EXECUTIVE BOARD

President	委員長	前野 まさる	Masaru MAENO
Vice President	副委員長	杉尾伸太郎	Shintaro SUGIO
Secretary General	事務局長	西村 幸夫	Yukio NISHIMURA
Trustees	理事	矢野 和之	Kazuyuki YANO
		赤坂 信	Makoto AKASAKA
		小野 昭	Akira ONO
		河野 俊行	Toshiyuki KONO
		黒田 乃生	Nobu KURODA
		清水 真一	Shinichi SHIMIZU
		杉尾 邦江	Kunie SUGIO
		鈴木 博之	Hiroyuki SUZUKI
		田中 哲雄	Tetsuo TANAKA
		田辺 征夫	Yukio TANABE
		西浦 忠輝	Tadateru NISHIURA
		濱崎 一志	Kazushi HAMAZAKI
		益田 兼房	Kanefusa MASUDA
		宮城 俊作	Shunsaku MIYAGI
		渡邊 保弘	Yasuhiro WATANABE
Auditors	監事	沢田 正昭	Masaaki SAWADA
		前田 耕作	Kosaku MAEDA
Advisors	顧問	石井 昭	Akira ISHII
		伊藤 延男	Nobuo ITO
		坪井 清足	Kiyotari TSUBOI

小委員会 WORKING GROUPS

Chiefs	主査	藤井 恵介	Keisuke FUJII
		稲葉 信子	Nobuko INABA
		石井 昭	Akira ISHII
		三宅 理一	Riichi MIYAKE
		益田 兼房	Kanefusa MASUDA
		西村 幸夫	Yukio NISHIMURA
		崎谷 康文	Yasufumi SAKITANI
		窪寺 茂	Shigeru KUBODERA

●国際諸委員会参加者 REPRESENTATIVES TO INTERNATIONAL COMMITTEES

Executive Member	岡田 保良	Yasuyoshi OKADA
Advisory Committee	前野 まさる	Masaru MAENO
ISC on:		
Archaeological Heritage Management Analysis and Restoration	小野 昭	Akira ONO
	岸本 雅敏	Masatoshi KISHIMOTO
	花里 利一	Toshikazu HANAZATO
	坂本 功	Isao SAKAMOTO
	西澤 英和	Hidekazu NISHIZAWA
Historic Towns and Villages	福川 裕一	Yuichi FUKUKAWA
	上野 邦一	Kunikazu UENO
Underwater Cultural Heritage Training	荒木 伸介	Shinsuke ARAKI
	稲葉 信子	Nobuko INABA
	工染 善通	Yoshimichi KURAKU
Cultural Landscapes	杉尾伸太郎	Shintaro SUGIO
	本中 眞	Makoto MOTONAKA
Vernacular Architecture	前野 まさる	Masaru MAENO
	大野 敏	Satoshi OHNO
Wood	伊藤 延男	Nobuo ITO
	渡邊 保弘	Yasuhiro WATANABE
Earthen Architecture Cultural Tourism	岡田 保良	Yasuyoshi OKADA
	宗田 好史	Yoshifumi MUNETA
	石井 昭	Akira ISHII
Legal Issues	河野 俊行	Toshiyuki KONO
Heritage Documentation	山田 修	Osamu YAMADA
Cultural Routes	杉尾 邦江	Kunie SUGIO
	大野 渉	Wataru OHNO
Stone	西浦 忠輝	Tadateru NISHIURA
	石崎 武志	Takeshi ISHIZAKI
Risk Preparedness	益田 兼房	Kanefusa MASUDA
Rock Art	小川 勝	Masaru OGAWA
	五十嵐ジャンヌ	Jannu IGARASHI



## JAPAN ICOMOS/INFORMATION

Vol.7, No.9 27 MARCH 2009

日本イコモス国内委員会 委員長 前野まさる

事務局担当理事 矢野和之 編集 赤坂 信

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-5-5 岩波書店一ツ橋ビル13階

株式会社 文化財保存計画協会 気付

Tel & Fax: 03-3261-5303 e-mail: [jpicomos@japan-icomos.org](mailto:jpicomos@japan-icomos.org)

<http://www.japan-icomos.org/>

JAPAN-ICOMOS National Committee Secretariat

c/o Japan Cultural Heritage Consultancy

Hitotsubashi 2-5-5-13F, Chiyoda-ku, Tokyo 101-0003, Japan

Tel & Fax: +81-3-3261-5303 e-mail: [jpicomos@japan-icomos.org](mailto:jpicomos@japan-icomos.org)

<http://www.japan-icomos.org/>